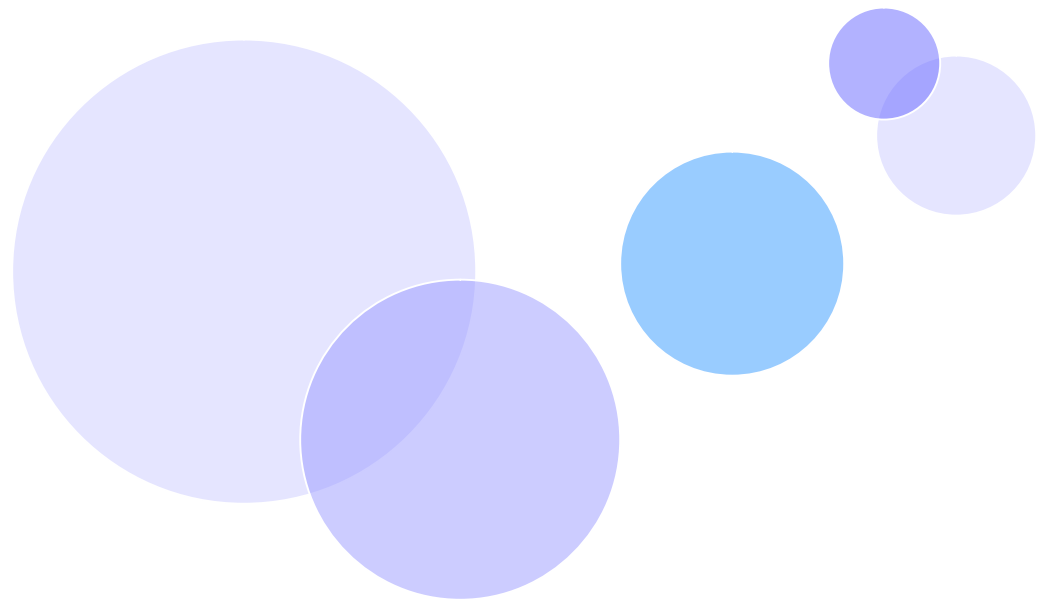


Campus Mate NPO

国際協力プロジェクトの概要

2009/05/21



■ 根源的な考え

- ◆ 機会と環境さえ与えられれば、人種に優劣はない。
- ◆ 途上国の貧しい人々の中にも、優秀な人は存在する。
- ◆ 優秀な人を活かさないのは、人類全体の損失である。
- ◆ よって、ICTを活用して教育の格差を解消したい！

■ ICTに着目する理由

- ◆ 地理的・時間的制約を超えた効率的な活動ができる。
- ◆ 活動の双方向のフィードバックが容易である。
- ◆ 成果を発信し易く、低予算で多くの裨益が見込める。
- ◆ 教育に役立つコンテンツを準備し易い。
- ◆ 被雇用力を高めるスキルとして導入できる。

■ フィリピン

- ◆ スタッフの知人であるフィリピンの女性が、日本人の設立した大学で日本語を修めたにも関わらず、就職先が無いことから人身売買の危機に晒されている。以上から、当地では職業訓練の場が特に必要と考え、当法人の強みであるICTを活かした協力を模索している。

■ エチオピア

- ◆ エチオピアで青年海外協力隊員として活動していたスタッフによると、同国のICT教育は理論に偏り過ぎ、実践を伝えられる人材は非常に僅少とのことだった。当地のICT活用を推進するためのモデルとして、当法人が実践的な活動を行う意味は大きいと考える。

■ 受益国の現状調査

- ◆ 現地の社会情勢・ICT状況を草の根レベルで把握し、以下に続く活動を成功させるための材料とする。

■ 共同プロジェクトの企画

- ◆ 対象となる機関が現在持つニーズの充足に止まらず、将来的なICT活用の推進に繋がるプロジェクトを、緊密なコミュニケーションを基盤として企画する。

■ 現地コーディネータ候補の選定

- ◆ 企画されたプロジェクトをしっかりと運営するためには、現地の優秀なコーディネータの存在が必須である。リスクを分散するため、コーディネータ候補者は複数人を募っている。

■ 共同プロジェクトの運営

- ◆ 前項の共同プロジェクトを、グループウェアを利用して緊密なコミュニケーションを継続させつつ、運営する。最終的には彼らが一人立ちできるように導きたい。なお、その過程で他の国際協力プロジェクトと協調することも視野に入れている。

■ 活動報告会の開催

- ◆ プロジェクトの成果を広報できる場を、各種国際協力機関と連携する形で整える。

■ 有用コンテンツの開発

- ◆ 受益国の現状調査結果を踏まえ、途上国で役に立つICT及び教育関連コンテンツの充実を図りたい。